

平成29年度事業報告書

(事業活動の状況の概要及びこれに関する数値のうち重要なものを記載した書類)

自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日

公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム

目次

1	事業業績の概要	p. 2
2	自己点検・評価結果	p. 4
	(1) 公益目的事業の達成度評価	p. 4
	(2) 収益事業の達成度評価	p. 6
	(3) 管理運営の取組みの達成度評価	p. 7
3	公益目的事業の業績	p. 8
	(1) 教育学習事業：多彩な学びの場を市民に提供する事業	p. 8
	(2) 人材育成事業：まちづくりの担い手を育成する事業	p. 16
	(3) 地域発展事業：生活・文化・福祉・産業の発展に寄与する事業	p. 23
4	収益事業	p. 29
5	管理運営	p. 30

1 事業業績の概要

本法人は、平成28年度から30年度までの3か年を「発展期」と位置付け、「管理運営体制の充実」と「公益目的事業の充実」の基本方針の下、目標達成に向けて全力で事業に取り組んだ。その結果、3つの公益目的事業はほぼ目標を達成できた。また、相模原市立市民・大学交流センター（以下センター）の指定管理業務についても、おおむね目標を達成することができた。

教育学習事業では、「さがまちカレッジ」において、加盟機関の専門性を活かしながら、市民が快適で充実した生活を送るための講座を44講座開講した。1,279人が受講し、理解度は90%に達した。「相模原市・座間市 市民大学」では社会が抱える諸課題と市民の学習ニーズに基づく講座を26講座開講した。相模原市・座間市市民を中心に1,087人が受講し、理解度は81%に達した。センターで開催した「オーサーズカフェ」では平均46人、総数1,104人の市民がさまざまなジャンルのトピックを聴講した。総じて教育学習系の事業は高い理解度・満足度を収めている。

人材育成事業では、「キャリア支援 4STEP PROGRAM」において、学生33人が企業10社の協力を得て企業研究に取り組み、研究成果を発表し能力伸長と地域活性化の両面から目標以上の実績をあげることができた。このプログラムの一環である「職種探求セミナー」には加盟大学以外の学生を含む44人が参加し、5企業・団体の発表と討論を傾聴した。また、近年力を入れている「さがまちインターンシップ」では、受入れ先が3団体増加して10団体となり、学生44人が参加し、通年を含む長期就業体験を行った。まちづくりの担い手の育成を目的とした「さがまち学生Club」では、8大学、32人の学生が企画実施や報告会に取り組んだ。

地域発展事業では、「学生映像制作」において、7大学、15チームが参加し、映像制作の技術の向上とともに、地域に対する理解を深めることができた。いずれの作品も完成度が高いとの外部評価を受けている。「地域情報誌制作」は、今年度から発行回数を年1回にすることにより、企画・取材に十分に時間をかけることができ、より充実した内容となった。

会員については、正会員は38機関で、昨年度と同数である。賛助会員は新たにアイワ広告株式会社、株式会社さくらノート、富士工業株式会社と社会福祉法人相模原市社会福祉協議会が入会し、計8機関となった。会員総数は46機関である。役員の就退任は監事2人（就任1人、退任1人）。役員の現員は理事7人、監事2人である。今年度は総務担当理事がセンターに関わる業務担当理事を兼務したが、今後は業務担当理事を選任する。

管理運営面では、公益目的事業の取り組みについて機動性を確保するため、18の事業を見直し、3つの公益目的事業に統廃合する変更認定申請を内閣総理大臣あてに行い、認定された。

センターについては、第2期（平成28年度～平成30年度）の指定管理者として指定管理業務に当たってきた。センターの目的である市民と大学の橋渡しや、研究機会の提供などについては、新たな要員配置も含めた改善策に取り組んだ結果、いずれのプログラムも目標を達成することが出来た。さがみはら地域づくり大学の運営については、計画どおりに講座を開講し、地域づくりに取り組む人材を輩出することができた。職員については、センターの指定管理業

務を行う要員を中心に、逐次補充、配置をしている。

当初収支予算は99,766千円（前年度比102%）を編成した。期中においては、センターにおける「平成28年度指定管理料返還金」を、当初予算において経常費用に計上していたが、法人全体・正味財産増減計算書の「経常外増減の部 経常外費用」に移し替え、新たに「平成28年度指定管理料返還金」の費目を設けて2,002,500円を経常外費用とした。また、本店の人材育成事業において新規受託事業があったため、収入101,246千円、支出101,030千円を計上し、収支差額は216千円とした。

財政構造については、収入の20.6%を受託事業費、地方公共団体補助金が占めている。昨年度に比べ、その割合は1.0%減少した。一方、収入の69.5%は指定管理料収入及び施設等利用料収入が占めている。会費収入の割合は5.6%と少なく、昨年度同様、均衡を欠く構造となっている。引き続き会費収入の拡大を図り、安定的な財源を確保したうえ、健全な財政基盤の確立が急務であると強く認識している。そのために昨年度構築した、「平成29年度以降の財政基盤の強化策」を推進していく。

2 自己点検・評価結果

公益目的事業の目標に対する実績について、過年度実績の推移との比較や参加者の満足度などを勘案し、自己点検・評価を行った。達成度の指標はA～Dの4区分で表した。それぞれの指標に対する評定の目安も、参考のために掲記した。管理運営の取り組みについては、当初計画に対する実績を略記し、達成度評価も付記した。

◇到達目標の達成度の評定

- A：目標が十分達成されている（例：先進事例やGPとして取り上げられている）
 B：目標がおおむね達成されている（例：着実な成果をあげており、今後の発展も期待される）
 C：目標の達成が不十分である（例：努力は認められるが、不十分であり、改善の余地がある）
 D：目標がほとんど達成されていない（例：目標の妥当性も含めて取り組み全体の見直しが必要である）
 +：評定水準をやや上回っている　－：評定水準をやや下回っている

◇評定の目安

評定	例		
	組織の設置	制度化の取組	改善の取組
A	組織を設置し、機能している	制度を発足し機能している	改善の成果が上がっている
B	組織を設置している	制度を発足している	改善の取り組みを行っている
C	組織の設置を検討中である	制度の発足を検討中である	改善の取り組みを検討中である
D	組織の設置は検討していない	制度の発足は検討していない	改善の取り組みは検討していない

(1) 公益目的事業の達成度評価

ア 教育学習事業

プログラム名	計画	実績	達成度
さがまちカレッジ	講座数：35 講座 申込者数：2,300 人 理解度・満足度：80%	講座数：44 講座 申込者数：2,968 人 理解度：90%、満足度：87%	B+
相模原市・座間市 市民大学	講座数：27 講座 申込者数：1,800 人 理解度・満足度：80%	講座数：26 講座 申込者数：1,279 人 理解度：81%、満足度：84%	B
センター・オーサ ーズカフェ	講座数：24 講座 聴講者数：960 人 満足度：80%	講座数：24 講座 参加者数：1,104 人 満足度：100%	A
センター・ユニコ ムセミナー	講座数： ユニコムセミナー：4 講座 申込者数：合計 440 人 理解度：80%	講座数： ユニコムセミナー：4 講座 申込者数：124 人 理解度：80%	B

イ 人材育成事業

プログラム名	計画	実績	達成度
キャリア支援 4 STEP PROGRAM	参加学生数：40人（定員の80%） 理解度・満足度：学生、企業ともに80% 4STEP：4コース 職種探究セミナー：1回6団体100人	①キャリア支援「4STEP PROGRAM2017」4コース 参加学生数：13大学、33人、定員の66%（定員50人） 参加企業数：10社 満足度：100% 理解度：96% ②「職種探究セミナー2018」 参加学生数：8大学、44人、定員の88%（定員50名） 満足度：100%、理解度：100%	B
子ども社会体験推進	子ども起業体験：1回 参加児童数：30人 満足度：80%	「さがみはら子どもアントレ」に 実行委員会の一員として参画	B
さがまちインターンシップ	受入先：10件（対前年3件増） 受入人数：20人（対前年4人増） 参加率：定員の80% 理解度・満足度：80%	インターンシップ受入先：10件 受入人数：44人 参加率：130% 理解度・満足度：95%	B+
さがまち学生Club	参加学生数：30人 満足度：80%	参加学生数：8大学、32人（企画参加学生数延べ130人） 企画数：20企画 満足度：100%	A
センター・さがみはら地域づくり大学	講座数： 地域づくり大学：14講座 申込者数：40人 理解度：80%	講座数：15講座 申込者数：55人 理解度：80%	B

ウ 地域発展事業

プログラム名	計画	実績	達成度
学生映像制作	映像 参加チーム：16（-4） 作品数：16（-4） 満足度：80% CM 参加チーム：16（+2） 作品数：10（+2） クライアント：3件（対前年1件増）	①番組制作 参加チーム数：7大学、15チーム 作品数：15作品 満足度：100% ②CM・PR動画制作 参加チーム：13チーム 作品数：10 クライアント：3件	B
地域情報誌制作	参加学生数：30人 満足度：80% 年間発行回数：1回	参加学生数：8大学32人 満足度：100% 年間発行回数：1回 「さがまち23号」（3月）約20,000部を発行	B
地域情報発信	HPアクセス数：140,000件（対前年比20%増） 更新数：117件（対前年比20%増）	HPアクセス数：49,500件/年（対前年比60%減） 更新数：110件/年（対前年比6%増）	C

センター・市民・大学協働フェスタ	まちづくりフェスタ:1回 ユニコムサミット:1回 参加者数:1,700人 参加団体数:33団体	①まちづくりフェスタ:1回開催 参加団体数:35団体 来場者数:約1,700人 ②ユニコムサミット:1回開催 参加団体数:13団体 参加者数:25人	B+
センター・市民・大学交流会	開催回数:6回 参加者数:120人	開催回数:6回 参加者数:81人	B
センター・市民と大学との橋渡し	①利用者交流会:12回 ②相談件数:50件 ③連携実績件数:20件	①シェアードオフィス利用者への支援 利用者交流会:12回開催 ②センター利用者への支援 相談件数:154件 ③市民と大学との連携実績20件	B+
センター・情報誌発行	月1回発行(3,000部)	発行:12回/年間 発行部数:3,000部 A4版2ページ、カラー、相模原市内の217か所に配布	B+
センター・団体登録	登録団体数:20団体(対前年比200%増)	登録団体数:24団体	B+
センターホームページ運営(C)	HPアクセス数:384,000件(対前年比20%増)	アクセス数:300,406件	B

(2) 収益事業の取組みの達成度評価

区分	取組み	当初計画	実績	達成度
管理運営	センターの施設等の管理運営事業(収益事業)	この事業は、一般市民などがセンターの施設等を利用するにあたり、相模原市条例に定める適正な料金のもとに次のサービスを提供し、利用者の便宜を図る。もって公益目的事業の推進への寄与を目指す。 ①シェアードオフィス運営支援(NPOや企業などが市民活動、地域貢献活動の拠点として利用するシェアードオフィス(共用貸事務所)の利用者有料支援) ②会議室等の貸し出し(セミナールーム、ミーティングルーム、AVスタジオ、実習室、情報コーナー、マルチスペースの有料貸し出し)	①シェアードオフィス利用者運営支援 利用者数:19団体・個人(平成39年3月31日現在) ②会議室等の貸し出し 一般利用者数:196,799人 利用件数:9,940件 利用率:69.1% ③備品等の貸し出し ④物品販売 ごみ袋、テープ ⑤利用者サービス コピー機:2台設置(有料) 無線LAN設置(無料)	B+

		③備品等の貸し出し（機械、映像機材、各種ソフト、備品の有料貸し出し） ④物品販売（自動販売機による飲み物の販売） ⑤利用者サービス（コピーサービス（有料）、無線 LAN（Wifi-Spot）（無料））	
--	--	--	--

(3) 管理運営の取組みの達成度評価

区分	取組み	計画	実績	達成度
管理運営	法人の管理運営体制の整備	1. 変更認定申請 2. 役員体制の整備	1. 内閣府による変更の認定(5月) 2. 補充の監事1人の選任(6月)	B+
	指定管理施設運営体制の整備	1. 円滑な施設管理運営	1. 相模原市との連絡調整会議（毎月1回開催）	B+
	事務局体制の整備	1. 市民・大学交流センター管理事務室職員の採用 2. 教育・研修の実施	1. 臨時職員3人を採用 2. 全員に対する接遇研修及び防災訓練の実施（2回）	B+
	情報公開の促進	1. 法令の遵守 2. 透明性の確保 3. 会員等の利便性の向上	1. 法定事項を公表 2. 議事抄録等を公開 3. 全規程を公開	B

3 公益目的事業の業績

魅力あふれる地域社会の創造への寄与を目的とする、教育学習事業、人材育成事業、地域発展事業

(1) 教育学習事業

ア さがまちカレッジ

加盟機関の専門性を活かしながら、暮らしに役立つ知識や社会的な課題の解決に向けた身近な話題をテーマに講座を開講した。

実 績	
期 間	平成 29 年 5 月～平成 30 年 3 月（Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期、こども体験講座）
講 座 数	43 プログラム、44 講座
定 員 数 等	定員数：1,234 人 申込者数：2,968 人 受講者数：1,279 人
内 容	「快適で充実した生活を送るための学び」をコンセプトに、暮らしに役立つ話題や生活を豊かにする情報、知的好奇心を満たす学術的知識、社会的な課題解決など様々な切り口で各大学等において講座を開講した。そのうち 15 プログラムは、町田市生涯学習センターとの協働の下、同センターならびに市内公共施設を会場として開講した。 学生が地域の魅力を発掘し、発信する企画から実施までを体験する「魅力づくりコンテスト」の受賞企画を地域団体と協同で新規イベントとして実施した。
自 己 評 価	講座数は計画の 30 講座を超える数を実施できた。申込者数は、全体の 3/4 の講座で定員数を越え、可能な限り受け入れ人数を増やし、多くの方に受講機会を提供することができた。地域の生涯学習の場として、地域市民に受け入れられつつあるように見受けられた。しかしながら、一部申込者が少なく、開催できない講座があった。 さがまちコンソーシアムの特色を活かした講座を目標数以上開催し、参加者の理解度や満足度も非常に高かったため「B+」と評価する。
課 題 と 対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生涯学習の場として、より多くの地域市民に受け入れられるようにするため、受講者のアウトカム評価や関心を分析し、講座の質、量を維持する。 ・申込者少数により開講できない講座があったため、講座の内容や対象に合った告知を行い、中止講座をなくす。
会 議 等	さがまちカレッジプロジェクト会議 開催日：平成 29 年 4 月 13 日 平成 29 年 7 月 12 日 平成 29 年 10 月 12 日 平成 30 年 2 月 5 日
収 支	受講料収入に加え、会費収入及び町田市負担金の一部を充当
実施の様子	

1) 開催講座実績

開催日	講座名	提供団体	参加者数
5/14・21・28	街並みスケッチ講座	町田デザイン専門学校	24
5/20・27・ 6/17・25	合唱を通してみなさまと 元気！笑顔！健康の輪！ ※	玉川大学	102
5/27	毎日みつける素敵な私 -おしゃれは心のサプリメント- ※	町田デザイン専門学校	22
6/3	本格伊勢型紙で金彩箔を使いタペストリーをつくりましょう ※	女子美術大学	18
6/24	健康な鶏から安全な卵を手にするために -アニマルウェルフェアの考え方-	麻布大学	12
7/22	食品を作るカビを見てみよう	麻布大学	31
7/22・29・8/5	まんがを描こう！ ※	町田デザイン専門学校	12
7/23	『ことわざ英語かるた』で遊ぼう♪～ゲームからオリジナル英語かるた作りまで～	相模女子大学	26
7/26	布で簡単なバッグを作ろう -織る・編むデコレーションで楽しいバッグ作り- ※	相模女子大学	15
7/29	親子いっしょにプログラミング	青山学院大学	120
8/1	細胞のなかを見てみよう	青山学院大学	14
8/5・6・7・8	Kids English in SALESIO	サレジオ工業高等専門学校	23
8/6	中学生のための初級薬学講座 ～薬の秘密を確かめよう～	相模原市薬剤師会	20
8/8	中高生のための心理学入門 ※	東京家政学院大学	14
8/9	小・中学生のための点字基礎講座-たった六つの点なのに-	相模女子大学	66
8/9	親子で体験、観光アクティブ・ラーニング -旅行企画や観光業のお仕事を学ぶ講座-	相模女子大学	34
8/20	親子で作ろう！LED で光るカラフルなミニチュアハウス ※	女子美術大学	28
8/21	水族館の仕事 -北里大学海洋生命科学部夏の体験講座- (午前)	北里大学	30
8/21	水族館の仕事 -北里大学海洋生命科学部夏の体験講座- (午後)	北里大学	29
8/23	型染でテーブルセンターを染めよう	東京家政学院大学	19
8/23・24・25	小学生のためのはじめての Android アプリ作り体験	サレジオ工業高等専門学校	23
8/23・24・25	中学生のためのはじめての Android アプリ作り体験	サレジオ工業高等専門学校	11
8/24	3D プリンタを体験してみよう！	女子美術大学	13
8/25	【学生講師プログラム】 楽しく環境を学ぼう in 鶴見川	和光大学	19
8/27・9/2・10	感じて描いてリラックス -クリニカルア	町田デザイン専門	22

	トータル ※	学校	
8/31・9/7・14	大人の食育 ～アンチエイジングのための料理教室～ ※	相模女子大学	21
9/2	親子で作るうどん教室	東京家政学院大学	40
9/4・11・25・10/2・16	研ぎ出し蒔絵に挑戦	東京造形大学	12
9/16	児童虐待をなくすためにーオレンジリボンを知ろうー	和泉短期大学	—
9/26・10/10	「動物園」もう一つの顔 ～園長が語る、動物園の社会的役割～	相模女子大学	36
10/30	大人のための絵本講座ー新たな魅力との出会いー	相模女子大学	34
11/5	動物の頭の骨を観察してみよう！～サルとタヌキの骨くらべ ※	麻布大学	12
11/12・19・26	木版画を楽しむーはがきサイズのアート制作ー ※	町田デザイン専門学校	12
11/17・22	ハンドベルでクリスマスソングを奏でよう ※	玉川大学	20
11/28	お酒の味わい ～造り方でこんなに変わる！味わい・香り・楽しみ方～	相模女子大学	52
12/9	愛されわんこを目指すには！親子でできるワンコミュニケーション	麻布大学	15
12/10	クリスマス飾りを作ろう ※	東京家政学院大学	12
1/28	パーソナル・ムービーをみんなで作ろう！ーこの街を生きる「私」の物語をビデオカメラで記憶するー ※	東京造形大学	6
2/11・12	日本画の材料に親しむー小作品を作ってみましょう ※	女子美術大学	12
2/17	『わたし』のストレス対処法 ～“こころ”と“からだ”の両面からストレス対処を考える～	北里大学	65
3/3・10・17	Adobe Photoshop を使ってオリジナルの写真集をつくろう	女子美術大学	16
3/4	薬・健康市民講座 余るクスリでリスクも増える！ーあなたのお薬管理、お手伝いします	相模女子大学	31
3/13・20	ベストセラー作家を支えるー大沢在昌・京極夏彦・宮部みゆきのマネジメントー	相模女子大学	69
3/18	人間関係の心理学 ～コミュニケーションを通してより良い関係について考える～	北里大学	67

※町田市生涯学習センターとの連携講座

2) 「魅力づくりコンテスト」の受賞企画実施イベント

名 称：あいほら“ワクワク”竹学校

日 時：平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）午前 10 時から午後 4 時

場 所：相原中央公園芝生広場

- 内 容：①竹をモチーフにした展示・ワークショップ
 ②竹と相原をキーワードにしたアトラクション・参加型イベント
 ③模擬店・地域物産販売
 来場者：約 500 名

イ 市民大学（相模原市及び座間市教育委員会委託事業）

高等教育機関の機能を活用し、社会が抱える諸課題と市民の学習ニーズに基づく入門的・継続的な学習機会を提供した。

実 績	
期 間	平成 29 年 7 月～平成 30 年 1 月（前期、後期）
講 座 数	14 コース、26 講座
定 員 数 等	定員数：1,492 人 申込者数：1,279 人 受講者数：1,087 人
内 容	地域市民の多様な学習意欲に応えるため、近隣の高等教育機関の協力により、それぞれの教育機関の特色を生かした幅広い内容の講座を開講した。
自 己 評 価	講座数はほぼ計画通りに開講できた。昨年度に比べ市民大学の規模は小さくなっているが、受講者の意欲は高まり、理解度も上昇している。受講者アンケートの設問を見直し、受講者のアウトカム評価や関心を的確にとらえ、主催者に提供することができた。受講者の本市民大学に寄せる期待は大きく、また受講者ならびに主催者の満足度も良好だったので「B」と評価する。
課 題 と 対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者ならびに主催者の満足度を維持するため、主催者、受講者双方の意見を参考にして、より円滑な運営を行う。 ・各校の特色を生かした良質の講座をより多くの地域市民に知らしめるために、本会 HP や広報物を活用し、受講者の拡大に努める。
会 議 等	市民大学連絡会議 開催日：平成 29 年 5 月 22 日 平成 30 年 2 月 13 日
収 支	市民大学委託事業費の全額を充当
実施の様子	

開催日	講座名	開催校	受講者数
前期	英語講座 英語ニュースを聞きとろう！4	相模女子大学・相模女子大学短期大学部	59
前期	今さら訊けない、いや、今からでも聞きたい身近な動物たちの話	麻布大学	20
前期	免疫と疾患の知識を深める	麻布大学	39
前期	そのまま子育てしようー完璧な親なんていないー	和泉短期大学	5
後期	介護する人、される人に楽(らく)で優しい移動・移乗の支援技術ーキネステティック理論をつかった腰痛にならない介助の仕方ー	和泉短期大学	17

前期	デッサン・木を描く	女子美術大学	24
前期	もし翼ある言葉なかりせば… —イメージ、音楽、文学の西欧文化	女子美術大学	138
前期	健康で豊かな人生のための基礎知識	北里大学	88
前期	暮らしに役立つ医療の知識	北里大学	101
前期	Cによるプログラミング	医療ビジネス観光情報専門学校	15
前期	診療報酬の仕組み ～病院に行くといくらかかる？（医療事務入門）	医療ビジネス観光情報専門学校	10
前期	サイエンス&テクノロジーが切り開く新たな世界	青山学院大学	104
前期	グローバルな視座から「共生社会」を考える	青山学院大学	43
前期	文化遺産を守るしくみを学ぶ	法政大学	40
前期	Active English in the News（中級）	サレジオ工業高等専門学校	20
前期	原油価格の今後の動きと、私たちの生活への影響	和光大学	20
後期	これ、英語でなんて言う？ ～英語らしさに迫る発想術～	相模女子大学・相模女子大学短期大学部	42
後期	著者と読む家族のうたと家族関係	相模女子大学・相模女子大学短期大学部	10
後期	“学際的な研究の可能性” —社会を多面的視点で考える—	青山学院大学	77
後期	水墨画を描く —墨と水に親しむことから	多摩美術大学	24
後期	これからの社会福祉のあり方	東京家政学院大学	4
後期	消費者教育と見守りの担い手育成のための消費者力アップ講座	東京家政学院大学	3
後期	Active English in the News（中級）	サレジオ工業高等専門学校	18
後期	楽しく歌って 笑顔！健康！元気！	玉川大学	110
後期	身近な問題からライフスタイルを考える	行政（相模原市・座間市）	17
後期	相模川を多面的に捉える～地理学・海洋生命科学・薬学から～	行政（相模原市・座間市）	39

ウ オーサーズカフェ（指定管理事業）

さまざまなジャンルから話題性の高いトピックを取り上げてトーク形式で解説する参加自由なカフェ形式のセミナーを提供した。

実 績	
期 間	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月（隔週土曜日 14：00～15：00）
講 座 数	24 講座

定員数等	定員数：定員数は特に設けていない 参加者数：1,104人、平均参加者数：46人
内容	健康、歴史、文学、芸術、自然科学、環境など、多彩なテーマについて第一線で活躍している大学教授や各界の専門家による講座を開講した。
自己評価	毎月2回のペースで開催、ユニコムプラザさがみはらの特徴的なにぎわいの空間として市民に認知されてきており、学びのきっかけづくり、市民と大学との接点の場となっている。受講者数も安定しており、常に20人を超えている。アンケート結果では、受講者の満足度が大変良好だった。先進事例としてメディアにも取り上げられているので「A」と評価する。
課題と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの薄い地元企業についても地域連携の視点で登壇を検討する。 ・通算150回の記念を迎えるに当たり、メディアによりアピールする。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	

開催日	講座名	参加者数
4月8日	大災害がおきても健康に生きる！	61名
4月22日	もうひとつの食の安全：うな井の未来	45名
5月13日	江戸の知恵を今に活かす ～江戸庶民の暮らしに学ぶエコ生活術	37名
5月27日	麻布大学いのちの博物館の楽しみ方	37名
6月10日	そして、地球環境核戦争が始まった	44名
6月24日	バーチャルな世界と現実世界をつなぐインタフェース技術	24名
7月8日	星と宇宙と本当の七夕のはなし	44名
7月22日	緑色光と魚とホルモンと	51名
8月12日	地産地消のメリットについて～実例を用いて～	45名
8月26日	カメラ・レンズの歴史とレンズの秘密～スマホじゃあ撮れない写真とは～	74名
9月9日	女流画家の歩み～女子美術大学で学んだアジアの留学生たち	32名
9月23日	人と羊のさまざまな関わり	45名
10月14日	オリンピックを100倍楽しむ法	33名
10月28日	女子美術大学美術館染織コレクション ～小袖編～	21名

11月11日	意外と面白いアワビの生物学	42名
11月25日	ミツバチとヒトと自然の関わり	47名
12月9日	食物アレルギーについて	69名
12月23日	名曲探偵が明かすベートーヴェン《第九》のヒミツ Season 3	89名
1月13日	観光の現状と訪日外客促進政策	35名
1月27日	車椅子から見える私たちが暮らす街(南区)の姿	30名
2月10日	夢広がる“きのこ”を科学する	42名
2月24日	高齢社会に向けたクルマの知能化	44名
3月10日	食体験で夢を叶える力を育む	44名
3月24日	桜のはなし	69名

エ ユニコムセミナー（指定管理事業）

日常の暮らしに役立つ実践的な研究や、地域課題解決の糸口につながる専門的な話題をテーマとし、セミナーを提供した。

実 績	
期 間	平成 29 年 5 月～平成 30 年 1 月
講 座 数	地域課題解決の糸口につながる話題を テーマとした 4 講座
参 加 者 数	124 人
内 容	地域課題を踏まえた実践的な内容のセミナーを 4 回開講した。
自 己 評 価	日常の暮らしに役立つ実践的な研究成果や、地域の課題解決につながる専門的な話題をテーマに、市民に分かりやすい講座として提供しているが、今回の講座も「地域を盛り上げる講話に元気づけられた」など受講者の満足度も非常に良好であったことから「B」と評価する。
課 題 と 対 策	・セミナー終了後、連携の有無と内容について追跡調査を行っているが、連携に繋がった例がないので、引き続きフォローしていく。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	 

開催日	講座名	参加者数
5月6日（土）	園芸療法によるいきいきライフー生活の質の向上から認知症予防まで	43名
5月20日（土）	安心安全な地域のデザインを考えよう	20名
11月4日（土）	団地再生の始め方	25名

1月6日(土)	今年も楽しく美味しく健康に！～食べる人にぴったりの食事を3・1・2弁当箱法で見つけましょう～	36名
---------	--	-----

(2) 人材育成事業

ア キャリア支援 4 STEP PROGRAM

就職活動を迎える学生を対象に、相模原市・町田市の魅力あるさまざまな企業と連携し、キャリア支援を目的とした体験型プログラム及びセミナーを実施した。

実績	
期 間	平成 29 年 9 月～平成 30 年 2 月
開 催 場 所	相模女子大学、訪問先各企業など
参 加 者 数	(キャリア支援 4 STEP PROGRAM2017) 学生 33 人 (職種探求セミナー2018) 学生 44 人
内 容	事前学習、企業訪問、グループワーク、発表・交流会を組み合わせた独自のプログラム「キャリア支援 4 STEP PROGRAM」を平成 29 年度も展開。相模原市・町田市内の優良企業 10 社の協力のもと、大学生コース及びサレジオ高専コース合わせて 4 コースを実施した。また昨年度に引き続き、キャリア支援講座として、「職種」という視点からこれから就職活動を迎える学生を対象としたパネルディスカッション方式のセミナー「職種探求セミナー 2018」を開催。地域で活躍する 5 名の若手社会人を招き、仕事の内容や日々の業務でのやりがい、苦勞などを 2 時間程度のパネルディスカッション方式にて紹介した。
自 己 評 価	4 STEP PROGRAM 及び職種探求セミナーともに参加者満足度が高く、協力企業からの評価も高い結果が得られた。しかし参加者数が目標を下回る結果となった。集客の課題と参加者評価に鑑み、「B」と評価する。
課 題 と 対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの参加者獲得のため、学生・大学・地域企業のニーズ検討を行い、より時代のニーズに合ったプログラムへ企画内容を再構築する。 ・集客の課題を解決するため、本会 HP や広報物を活用し、また加盟大学との連携を強化し、参加者の拡大に努める。
会 議 等	4 STEP PROGRAM プロジェクト会議 開催日：平成 29 年 5 月 26 日 平成 29 年 11 月 27 日
収 支	会費収入及び相模原市補助金の一部を充当
実施の様子	  

1) キャリア支援 4 STEP PROGRAM 2017

実施日	STEP1 事前学習：(大学・サレジオコース合同) 9月1日 STEP2 企業訪問：(大学コース) 9月4日、9月6日、9月8日 (サレジオコース) 9月11日 STEP3 課題作成：(大学コース) 9月16日、9月30日 (サレジオコース) 9月22日、9月26日、10月2日 STEP4 発表交流会：(大学・サレジオコース合同)：10月7日
実施場所	相模女子大学催事場及びマーガレットホール、さがみはら産業創造センター会議室、町田新産業創造センター会議室、各協力企業会議スペース など
参加学生数	33 人
参加大学	麻布大学、慶應義塾大学、相模女子大学、サレジオ工業高等専門学校、芝浦工業大学、昭和女子大学、白百合女子大学、東京経済大学、東洋大学、法政大学、明治大学、横浜市立大学、早稲田大学
協力企業数	10 社
協力企業	株式会社F-Design、株式会社キャロットシステムズ、株式会社サンライフ、有限会社ケミカル電子、株式会社日本ゼトック、株式会社イノウエ、株式会社ブリッジ、株式会社ビックボイス、株式会社ニックス、三木プーリ株式会社

2) 職種探求セミナー2018

実施日	2月22日 17時～19時30分
実施場所	相模女子大学 711 教室
参加学生数	44 人
参加大学	医療ビジネス観光情報専門学校、桜美林大学、相模女子大学、実践女子大学、上智大学、多摩大学、中央大学、法政大学
協力企業数	パネリスト 5 団体
協力企業	(株)八千代銀行、(株)さくらノート、アイワ広告(株)、相模女子大学、町田市役所

イ 子ども社会体験推進

地域の小学生が「会社設立、事業計画書の作成、資金調達、仕入、製造、販売、決算」という起業プロセスを疑似体験するプログラムに実行委員会の一員として参画した。

実績	
期間	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
内容	相模原地域の小学生が「会社設立、事業計画書の作成、資金調達、仕入、製造、販売、決算」という起業プロセスを疑似体験するプログラム「さがみはら子どもアントレ」に実行委員会の一員として昨年度に引き続き参画。平成 29 年度の事業内容や広報手段等の提言を行った。

自己評価	実行委員として年間を通じて参画し、50名の子どもの社会体験推進に寄与したため、「B」と評価する。
課題と対策	次年度も実行委員として参画し、子供の社会体験に寄与していく。
会議等	さがみはら子どもアントレ実行委員会 開催日：平成29年5月22日 平成29年7月20日 平成29年10月13日
収支	会費収入の一部を充当

ウ さがまちインターンシップ

学生のキャリア形成の支援として、地域産業への理解を深める、地域の特色ある企業や公共活動に取り組むNPO等の活動を知る事などを目的としてインターンシップに取り組んだ。

実績	
期間	平成29年6月～平成30年3月
受入先数	10件
参加者数	加盟大学の学生44人
参加大学	桜美林大学、國學院大學、相模女子大学、玉川大学、多摩美術大学、法政大学、山野美容芸術短期大学
内容	地域の特色ある企業や公共活動に取り組むNPO等と大学を結ぶ「マッチングステージ」として各インターンシッププログラムを展開。プログラムの特徴は最短でも1か月、長期では9か月に及ぶ長期就業体験。
自己評価	前年度に比べ、実習受入れ数は7件から10件と増え、また参加学生数も26人から44人と増加した。地域に根差した魅力的な実習先と学生との出会いの場を多く創出し、また参加した学生からの理解度・満足度は95%と高かったため、「B+」と評価する。
課題と対策	・実習先及び参加学生が増加したことにより、例年よりも資料作成や関係先との調整等の事務作業が大幅に増加した。平成30年度も実習先の増加が想定されるため、事務作業等の効率化を図る。 ・一部のインターンシップでは定員に満たない実習先もあったため、本会HPや広報物を活用し、また加盟大学との連携を強化し、参加者の拡大に努める。
収支	会費収入及び相模原市補助金の一部を充当
実施の様子	  

1) 受入先別実施状況

受入先	期間	参加者	内容
FMさがみ	平成29年6月～平成30年3月	6人	コミュニティーFM局「エフエムさがみ」の協力の下、学生独自のラジオ番組制作やアナウンス業務等を体験

さがみはら市民活動サポートセンター	平成 29 年 6 月～12 月	4 人	センター主催イベントの企画・運営業務やセンターの広報、交流ワークショップの運営業務等を体験
SC 相模原	平成 29 年 6 月～12 月	12 人	チラシ作りやホームゲーム当日の試合運営補助など、プロサッカーチームにおけるスポーツマネジメント業務を体験
ユニコムプラザさがみはら	平成 29 年 7 月～9 月	3 人	主催イベント「まちづくりフェスタ」の企画・運営サポートや、施設管理サポート等
J:COM	平成 29 年 8 月～9 月	3 人	テレビ収録のアシスタントディレクターとして、実際の収録現場を体験
相模大野図書館	平成 29 年 8 月	1 人	貸出・レファレンス等の図書館司書業務の体験、及び図書館に対する企画のプレゼンテーションを実施
町田市生涯学習センター	平成 29 年 8 月	5 人	センター主催の生涯学習系イベントの運営補助やその他広報業務の体験、及びセンターに対する企画プレゼンテーションを実施
町田市ひなた村	平成 29 年 8 月	2 人	子どもを対象としたキャンプイベントや学習イベントの企画運営補助業務を体験
町田国際交流センター	平成 29 年 9 月～平成 30 年 3 月	3 人	日本語教室やスポーツ大会等の異文化交流事業の運営補助業務を体験
町田市民ホール	平成 29 年 9 月～平成 30 年 3 月	5 人	市民ホールで開催されるコンサートや落語、TV 番組収録イベント等の運営補助業務を体験

エ さがまち学生 Club

相模原・町田地域の活性化を目的とした学生によるまちづくりの取組み。主な内容は、地域活性化をテーマとした学生企画の実施、まちおこしイベントへの参画、ボランティア活動、情報取材活動・情報発信活動など多岐にわたる。

実 績	
期 間	平成 29 年 6 月～平成 30 年 3 月
取組企画数	20 件
参加者数	加盟大学の学生 32 人（企画参加学生数延べ 130 人）
参加大学	青山学院大学、桜美林大学、相模女子大学、湘北短期大学、女子美術大学、玉川大学、法政大学
内 容	まちづくりへの関わりを通じて青年の社会適応力の育成を目的とする。クラブに所属する学生の自主性の下、年間を通して、様々な相模原市、町田市の地域団体と連携し、20 件のまちづくり企画を実施した。
自己評価	今年度も多種多様な幅広い分野で学生まちづくり活動を推進することができた。また度々各種メディアにも取り上げられるなど、地域からの注目度も高まってきている。参加学生及び協働団体からの評価も高かったため、「A」

	と評価する。
課題と対策	・活動の幅が拡大した分、例年よりも資料作成や関係先との調整等の事務作業が大幅に増加した。平成 30 年度も同程度以上の活動範囲が想定されるため、事務作業等の効率化を図る。
収 支	会費収入及び相模原市補助金の一部を充当
実施の様子	  

1) 活動の実績

実施月	内容	参加者	依頼元
8月	「橋本七夕まつり」ブース出店	(学生) 25人 (参加者) 約 1,500人	相模原市緑区
8月	第 57 回社会教育研究全国集會事例発表	(学生) 2人 (聴講者) 約 40人	社会教育推進全国協議会
8月	相模原市シティセールスサポーターズ委嘱式	(学生) 2人	相模原市シティセールス親善交流課
9月	相模原市職員採用についての意見交流会	(学生) 3人 (市職員) 5人	相模原市人事委員会
9月	「山コン in 藤野」の企画	(学生) 6人 (参加者) 32人	藤野商工会青年部
10月	パートナシップミーティング 事例発表	(学生) 1人 (聴講者) 約 100人	さがみはら市民活動サポートセンター
11月	「町田市食育フェア」ブース出店	(学生) 7人 (参加者) 約 200人	町田市保健所
11月	「津久井湖花火大会」ブース出店	(学生) 10人 (参加者) 約 400人	津久井商工会青年部
11月	相模原市内企業のPR記事制作	(学生) 3人 (企業数) 2社	さがみはら産業創造センター
12月	相模原市内企業と学生による意見交換会	(学生) 24人 (企業数) 6社	さがみはら産業創造センター
12月	FMさがみラジオ番組ゲスト出演	(学生) 5人	相模原商工会議所
2月	相模原市内の子ども食堂とのバレンタインデー企画	(学生) 5人 (参加者) 27人	あいおいみんなの食堂
2月	小山中学校「総合」の授業内での講義	(学生) 8人 (中学生) 約 250人	町田市立小山中学校
3月	相模原市長との意見交換会「市政を語る会」にて市政提案	(学生) 7人	相模原市広聴広報課
3月	町田市「ガクマチ EXPO」への参画	(学生) 3人	町田市生涯学習センター
通年	町田市藤の台団地活性化プロジェクト「ふじずかん」の企画運営	(学生) 10人 (参加者) 約 70人	町田市役所住宅課

通年	町田市ひなた村のPR動画の企画・制作	(学生) 3人	町田市ひなた村
通年	相模原市介護職PR動画の企画・制作	(学生) 6人	相模原市高齢政策課

オ さがみはら地域づくり大学 (指定管理事業)

協働の観点での地域活動及び市民活動を促進するために必要な知識や技術を体系的に学習する講座を開講した。

実績	
期 間	平成28年9月～平成30年2月
講 座 数	基礎コース6講座、応用コース6講座、専門講座3講座、計15講座
定 員 数 等	定員数：各コース 20人 参加者数：182人 (延べ人数)
内 容	4月に開講式・開講記念学長講演、2月に終了式・受講者交流会を開催。本講座は6月から1月までの8か月間にわたって開催した。 コーディネーターズサークル交流会、特別公開講座を開催した。
自 己 評 価	受講生の確保が当初の予定に達しなかった。このため、途中からは講座ごとの募集チラシを作成配布し、また、開催済みの講座の様子をセンター内でビデオ放映するなどして、受講生の獲得に努めた。予定の講座はすべて開講することができたので「B」と評価する。
課 題 と 対 策	・事務局の負担が大きく、より魅力ある講座内容を検討すべきところが着手できていないので、事務作業を見直し、簡素化に努める。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	

1) 内容及び受講者数

コース		講座名	開催月	受講者数
基礎 コース	必修	地方分権と協働政策	6月	15
	必修	相模原を知ろう、学ぼう	7月	17
	必修	協働の考え方とさまざまな協働のかたち	10月	15
	選択	組織運営の実際 ～思いを形にする～	11月	16
	選択	効果的な広報とメディアの活用	12月	17
	選択	相模原の未来を描く	1月	17
応用 コース	必修	地域づくりのためのファシリテーション	6月	12
	必修	福祉	7月	9
	必修	まちづくり	10月	11
	選択	命を守る相模原の防災	11月	10

	選択	子育て支援	12月	8
	選択	環境	1月	6
専門講座		俳句とまちづくり～さがみはらを詠む～	8月	17
		ネイチャーゲーム～五感を使って自然から学ぶ～	8・9月	6
		森林ボランティア講座～さがみはらの自然を守ろう～	9月	6
合 計				182

2) コーディネーターズサークル交流会

	開催日	講座名	参加者数
第1回	平成29年 5月31日(水)	修了者の近況報告、本大学で学んだことで心がけていることや課題について意見交換	7名
第2回	平成29年 8月30日(水)	「参加者の意見を活かし解決する」会議と計画の技法であるCPS手法の学習	5名
第3回	平成29年 11月18日(土)	修了者と第3期受講者との交流による相互理解と情報共有	15名
第4回	平成30年 3月18日(日)	修了者の近況報告、次年度に向けて計画していることや、今後の予定等についての報告と意見交換	4名

3) 開講記念学長講演

日 時：平成29年4月22日(土) 午後6時5分から7時15分

場 所：ユニコムプラザさがみはら セミナールーム2

講 師：さがみはら地域づくり大学学長 中邨 章氏(日本協働政策学会理事長、明治大学 名誉教授)

テーマ：いのちを守る、さがみはらを守る ～地域づくりと防災～

参 加：45名

4) 特別公開講座

日 時：平成30年3月18日(日) 午後2時から3時30分

場 所：ユニコムプラザさがみはら セミナールーム1・2

講 師：平嶋 彰英氏(立教大学経済学部経済学科 特任教授)

テーマ：消滅の危機から5年連続J1へ ヴァンフォーレ甲府の軌跡
地域が支えるヴァンフォーレ甲府、ピンチこそチャンスだった

参 加：61名

(3) 地域発展事業

ア 学生映像制作

映像制作を通して地域への理解を深め、また、取材、企画提案、番組構成案作成、撮影等の一連の作業を通じて、協調性や他者との関係作りに必要な能力と態度を育成する。

実績	1) 学生情報局「さがまちバンバン」 2) CM・PR 動画制作
期間/開催日	平成 29 年 8 月～平成 30 年 3 月
作品数	1) 15 作品 2) 10 作品
参加団体	1) 加盟大学の 15 学生団体 2) 加盟大学の 13 学生団体
内容	1) 地域の学生が TV 番組制作を通して地域への理解を深めること、そして学生目線の地域映像情報に接した市民が地域の再認識することを目的とするプログラム。平成 29 年度は 7 大学 15 チームがエントリーし、それぞれ 15 作品を制作。制作された作品はさがまち HP 及び YouTube 等で配信した。また 3 月には優秀作品の選考、表彰を行う「さがまちバンバンアワード」を開催。番組制作に携わった学生チームが一堂に集まり、作品を振り返りながら、制作指導に当たったプロから講評を受けた。 2) 地域団体からのオファーを受け、地域の学生が CM・PR 動画を制作。平成 29 年度は 3 団体（神奈川県国民年金基金、町田市ひなた村、相模原市高齢政策課）からのオファーがあり、計 10 本の動画作品を制作。制作された作品は地域コミュニティチャンネルや公共バスのデジタルサイネージ、各種インターネット等で放送されている。
自己評価	TV 番組や CM・PR 動画制作を通して学生が地域への関心を深める一方、協調性や他者との関係作りに必要な能力を育成した。参加した学生、関係した教員、地元地域ともに好評であったため「B+」と評価する。
課題と対策	多くの学生が参加した本事業だが、参加する大学は例年固定化されつつある。幅広い学生参画を目指すためにも、広報・プロモーション方法などを再検討し、参加者の拡大に努める。
収支	会費収入の一部を充当
実施の様子	  

1) ① 学生情報局「さがまちバンバン」作品一覧

放送月	作品タイトル	制作団体
9 月後半	モデル大捜査線	青山学院大学
10 月前半	さがまちクエスト	女子美術大学
10 月後半	関本ランド	女子美術大学
11 月前半	就活ものがたり	相模女子大学
11 月後半	君は思い出	桜美林大学

12月前半	カラーガードの魅力	桜美林大学
12月後半	町田仲見世商店街	和光大学
1月前半	もうひとつの箱根駅伝	青山学院大学
1月後半	さがまちクッキング大作戦 2018	玉川大学
2月前半	コワイ女	玉川大学
2月後半	さがまち兄弟	東京造形大学
3月前半	レトロ自販機再生屋	桜美林大学
3月後半	うさばん	相模女子大学
4月前半	石井強～人生の成型から完成のその先～	桜美林大学
4月後半	The MAMA of Japanese snack bar	桜美林大学

1) ② さがまちバンバンアワード2017 受賞作品

賞タイトル	作品タイトル	制作団体
最優秀作品グランプリ	町田仲見世商店街	和光大学
バラエティ部門グランプリ	関本ランド	女子美術大学
ドキュメンタリー部門グランプリ	The MAMA of Japanese snack bar	桜美林大学
ドラマ部門グランプリ	さがまち兄弟	東京造形大学

2) CM・PR動画制作作品一覧

クライアント名	作品タイトル	制作団体
神奈川県国民年金基金	カラオケ篇	相模女子大学
神奈川県国民年金基金	バッティングセンター篇	相模女子大学
神奈川県国民年金基金	妖精篇	玉川大学
神奈川県国民年金基金	若者の主張篇	東京造形大学
神奈川県国民年金基金	漫画家篇	東京造形大学
町田市ひなた村	おいでよ！ひなた村～あそびかたへん～	さがまち学生 Club
町田市ひなた村	おいでよ！ひなた村～イベントへん～	さがまち学生 Club
町田市ひなた村	おいでよ！ひなた村～こうざへん～	さがまち学生 Club
相模原市高齢政策課	見てみよう！知ってみよう！介護の仕事	さがまち学生 Club
相模原市高齢政策課	介護職への扉	さがまち学生 Club

イ 地域情報誌制作

学生による地域情報誌制作を通して地域への理解を深め、また情報誌を手にした市民が地域のイベントや活動を知り、地域の魅力を再認識することを目的して実施した。

実績	
期間	平成29年6月～平成30年3月
参加者数	加盟校の学生32人
参加大学	青山学院大学、桜美林大学、相模女子大学、湘北短期大学、女子美術大学、玉川大学、法政大学
内容	地域の学生が地域情報誌「さがまち」23号を約半年をかけて制作。発行した2万部の情報誌は、相模原・町田市内の公共施設、銀行、病院など約500

	箇所配架している。
自己評価	情報誌制作を通して学生社会適応能力の向上と情報発信による地域活性に寄与したので「B」と評価する。
課題と対策	より市民に身近な地域情報誌を目指すため、新たな配架場所や地域の協力者を獲得し、更なる地域活性を目指す。
収 支	会費収入及び相模原市補助金の一部を充当
実施の様子	  

1) 地域情報誌「さがまち」23号の概要

発行数	2万部
配架場所	相模原市・町田市内のまちづくりセンターや図書館などの公共施設、銀行、総合病院、高校、大規模商業施設など約500箇所
概要	B5版サイズ・16ページ・両面カラー
記事タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・さがまち×チャレンジする学生～街と、人と、繋がる未来～ ・みんなのSC相模原 ・様々な取り組みやっています～団地のステキ発見～ ・気になるSAGAMACHI ・黒板アートのつくりかた

ウ 地域情報発信

ポータルサイト「さがまち」による情報発信事業。

実 績	
期 間	平成29年4月～平成30年3月
HPアクセス数	49,500件
更 新 数	110件
内 容	ポータルサイト「さがまち」の運営を通して地域情報の発信をした。
自己評価	昨年度と比べHPアクセス数が減少した。更新数は増加し、アクセス数の減少が他の事業に与える影響は概ねなかったため、「セキュリティ強化に伴う仕様変更」が主な原因として考えられる。しかしアクセス数減少の結果を受け止め「C」と評価する。
課題と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス数減少の原因究明を行う。 ・SNSの連動など時代のニーズ、シーズに沿った情報発信を心掛ける。
収 支	会費収入及び相模原市補助金の一部を充当
	 

エ センター市民・大学協働フェスタ

地域・市民団体と大学が協働したまちづくりイベントを開催。

実 績	
	1) 市民・大学協働まちづくりフェスタ 2) ユニコムサミット
開 催 日	1) 平成 29 年 10 月 15 日 2) 平成 30 年 3 月 3 日
参 加 者 数	1) 参加団体数：35 団体、来場者数：約 1,700 人 2) 参加団体数：13 団体、参加者数：25 人
内 容	1) 自治会・商店街・公民館の地域活動、市民団体・NPO の市民活動、大学の生涯学習講座や研究成果、学生の地域連携活動、企業の地域貢献活動の取組を展示する。 2) 地域・市民活動を実践する団体・個人を対象に、成功事例や課題、経験者にしかわからない隠れた問題などを紹介し、その解決方法を参加者が共有する。
自 己 評 価	1) 協働事業成果発表、出展者同士のつながりを重視した事業担当者による出展者双方の顔合わせ、終了後の懇親会を行った。アンケートの結果は、期待した効果があった 91%、市民と大学との交流がされた 83%、地域の活性化に役立つ 96%、次回も出展したい 91%となった。 2) 交通安全（特に自転車事故防止）について関係者を招集してサミットを開催した。情報共有と啓発に向けてユニコムプラザさがみはらからの提案を行った。 以上を踏まえ「B+」と評価する。
課 題 と 対 策	・ 1)、2) 共に来年度の開催に向けて日頃の活動を活発に行う。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	

オ センター・市民・大学交流会

実 績	
開 催 期 間	平成 29 年 5 月～平成 30 年 3 月
開 催 数	6 回
参加者数等	81 人
内 容	個人・団体が大学と交流する場の提供。「地域連携の考え方」、「大学の得意分野」「協力を要請したい分野」などの具体的なテーマを設定し、市民と大学との連携のきっかけを創出する。
自 己 評 価	具体的テーマに基づく 6 回の市民・大学交流会を開催し、活発な意見交換を行ったことから「B」と評価する。
課 題 と 対 策	・ 交流会終了後、連携の有無と内容について追跡調査を行っているが、連携に繋がった例がないので、引き続きフォローしていく。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当

実施の様子		
-------	---	---

開催日	テーマ	参加者数
5月24日(水)	2020 東京オリンピックに向け、ロンドン大会における街づくりから相模原・町田エリアを考える	15名
7月26日(水)	異文化交流	9名
9月27日(水)	コミュニケーション技法、地域連携がもたらす社会人基礎力	14名
11月22日(水)	SDGs(持続可能な開発目標)の多様な入口	14名
1月24日(水)	腸内フローラと健康	25名
3月28日(水)	若い力を育てる湘北インターンシップ!	4名

カ センター・市民と大学との橋渡し

実績	
期間	平成29年4月～平成30年3月
内容	①シェアードオフィス利用者への支援 利用者交流会：12回開催 ②センター利用者への支援 相談件数：154件 ③市民と大学との連携実績20件
自己評価	①利用者交流会を通じて活動状況の把握とアドバイスができた。 ②受身型の相談から提案型の相談が増えた。 ③年間を通して多種多様な橋渡しを実現し、その後もフォローしている。 以上を踏まえ「B+」と評価する。
課題と対策	・テーマを決め、より実践的な自主事業を行うことでアドバイス、提案、橋渡しを継続的に実現する。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	デコレーションポットで育てるミニシクラメン (相武台団地ー東京農業大学)  

キ センター・情報誌発行

センター事業やセンターに係わる様々な団体の取り組みや連携に関する情報を紹介する情報誌を定期的に発行。

実績	
期間	平成29年4月～平成30年3月
発行回数	12回/年間

発行部数	3,000部
内容	A4版2ページ、カラー、相模原市内の217か所に配布 センター事業の紹介、大学の活動紹介、シェアードオフィス利用者の活動紹介など、様々な取り組みや市民と大学との連携に関する有効な情報を紹介した。
自己評価	施設の設置主旨に鑑み、「市民と大学との連携」について、タイムリーに情報発信できたので「B+」と評価する。
課題と対策	・企業の地域連携活動としてのイベントにも注目していく。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当

ク センター・団体登録

実績	
期間	平成29年4月～平成30年3月
登録団体数	24団体
内容	定期的にセンターを利用する団体・フェスタへの出展者に対し登録を促す。 登録団体を増やすことを目的として、説明会を開催（7月26日～29日）
自己評価	登録数は、昨年度10団体から24団体に増加したため「B+」と評価する。
課題と対策	・次年度もフェスタへの出展者に対して登録を促すなど、増加に努める。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当

ケ センター・ホームページ運営

市民や大学、企業・団体が行う多彩な活動を紹介する。センター事業をはじめ、センターと団体との共同事業、利用団体（利用者）が行う事業、その他の地域情報を幅広く紹介する。

実績	
期間	平成29年4月～平成30年3月
HPアクセス数	300,406件
更新	毎日
内容	センターで開催される多彩な活動について、予告を中心に紹介。また、施設案内、利用案内、施設予約状況は毎日最新情報を発信。 「市民と大学との連携」は特設ページを開設し、PRと事例を紹介。 そのほか、「最新ニュース」、「おすすめイベント情報」を掲載し、発信。 センターでの活動状況や各大学の連携状況をリアルに紹介するためのフェイスブックの運営と、学生に向けた情報発信のツールとしてツイッターを運営。
自己評価	年間を通して問題なく運用できたので「B」と評価する。
課題と対策	・ホームページのリニューアルについて、予算を調整しながら対応する。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当

4 収益事業

センターの施設等の管理運営事業（公益目的事業の推進に寄与する事業）

一般市民などがセンターの施設等を利用するに当たり、相模原市条例に定める適正な料金のもとにサービスを提供し、利用者の便宜を図ることに努めた。

- (1) シェアードオフィス運営支援（NPO や企業などが市民活動、地域貢献活動の拠点として利用するシェアードオフィス（共用貸事務所）の利用者有料支援）
- (2) 会議室等の貸し出し（セミナールーム、ミーティングルーム、AV スタジオ、実習室、情報コーナー、マルチスペースの有料貸し出し）
- (3) 備品等の貸し出し（機械、映像機材、各種ソフト、備品の有料貸し出し）
- (4) 利用者サービス（コピーサービス（有料）、無線 LAN (Wifi-Spot)（無料））

5 管理運営

(1) 総会・理事会

ア 社員総会

	開催日	開催場所	内容
定時 社員総会	平成 29 年 6 月 20 日	ユニコムプラ ザさがみはら セミナールー ム 2	< 審議事項 > (1) 監事の選任について (2) 名誉会員の推薦について (3) 平成 28 年度収支決算(案)について < 報告事項 > ・ 賛助会員の入会について ・ 公益目的事業の変更認定結果について ・ 平成 28 年度事業報告について

イ 理事会

	開催日	開催場所	内容
第 46 回 理事会	平成 29 年 6 月 5 日	相模女子大学 会議室 5	< 審議事項 > (1) 賛助会員の新規入会 (2) 補充の監事候補者について (3) 名誉会員候補者の推薦について (4) 人事について (5) 平成 28 年度事業報告(案)について (6) 平成 28 年度収支決算(案)について (7) 社員総会の議案について (8) 平成 29 年度補正予算(案)について < 報告事項 > ・ 公益目的事業の変更認定結果について ・ 各委員会開催結果について ・ 予算の進捗状況について
第 47 回 理事会 (臨時)	平成 29 年 6 月 20 日	ユニコムプラ ザさがみはら ミーティング ルーム 3	< 審議事項 > (1) 業務担当理事(業務執行理事)の選定等 について (2) 定時社員総会の議案及び議事進行につ いて
第 48 回 理事会 (臨時)	平成 29 年 9 月 12 日	相模女子大学 会議室 2	< 審議事項 > (1) 賛助会員の新規入会について (2) 人事について < 報告事項 > ・ 各委員会開催結果について ・ 予算の進捗状況について ・ 業務執行状況について
第 49 回 理事会 (臨時)	平成 29 年 12 月 12 日	相模女子大学 会議室 2	< 審議事項 > (1) 賛助会員の新規入会について (2) 人事について (3) 平成 29 年度第 2 次補正予算(案)につ いて (4) 情報セキュリティに関する基本方針 (案)及び対策規程(案)について < 報告事項 > ・ 各委員会開催結果について ・ 予算の進捗状況について

第50回 理事会	平成30年 3月13日	相模女子大学 会議室2	<審議事項> (1)理事の選任区分の変更について (2)役員の選任に係わる推薦手続きについて (3)人事について (4)職員の給与規定について (5)平成30年度事業・組織体系(案)について (6)平成30年度事業計画(案)について (7)平成30年度収支予算(案)について <報告事項> ・退会について ・予算の進捗状況について ・業務執行状況について
第51回 理事会 (臨時)	平成30年 3月22日	相模女子大学 2126教室	<審議事項> (1)平成29年度第3次補正予算(案)について (2)平成30年度収支予算(案)の修正について <報告事項> ・平成29年度決算見込みの修正について

(2) 委員会

ア 運営委員会

	開催日	開催場所	内容
第1回	平成29年 5月9日	ユニコムプ ラザさがみ はら セミナール ーム2	<審議事項> (1)運営委員会委員長の選任について <報告事項> ・賛助会員の新規入会について ・理事の辞任及び業務執行理事の担当変更について ・人事について ・平成29年度事業計画について ・平成29年度収支予算について
第2回	平成29年 10月10日	ユニコムプ ラザさがみ はら セミナール ーム2	<報告事項> ・賛助会員の新規入会について ・人事について ・法人の運営状況について ・業務執行状況について
第3回	平成30年 2月13日	ユニコムプ ラザさがみ はら セミナール ーム2	<報告事項> ・賛助会員の新規入会について ・人事について ・法人の運営状況について ・業務執行状況について

附属明細書

事業における重要な事項は平成27年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特にないため、当年度の附属明細書は作成しない。